

前立腺肥大症に対する17-hydroxy-19-norprogesterone caproate (SH-582) の効果 (Ⅱ)

—長期投与症例のその後の経過について—

東北大学医学部泌尿器科学教室 (主任: 矢野仙太郎教授)

渡	辺	決
海	法	裕
高	橋	寿
加	藤	哲
島	正	美

EFFECTS OF 17 α -HYDROXY-19-NORPROGESTERONE CAPROATE (SH-582) ON PROSTATIC HYPERTROPHY (II)

Hiroki WATANABE, Hiroo KAIHO, Hisashi TAKAHASHI,
Tetsuro KATO and Masami SHIMA

*From the Department of Urology, Tohoku University School of Medicine, Sendai
(Director: Prof. S. Shishito, M. D.)*

SH-582 was administered to ten patients with prostatic hypertrophy. The effects could be summarized as follows:

- 1) An improvement of subjective symptoms in large majority of the cases.
- 2) A decrease of residual urine in some cases.
- 3) No reduction of the prostatic size by ultrasonotomographic measurement in so far as administration within 6 months.

私たちは日本シエーリング株式会社の依頼をうけ、17 α -hydroxy-19-norprogesterone caproate (SH-582) を前立腺肥大症患者に投与し、その効果を、とくに超音波断層法による前立腺の大きさ計測^{1),2)}を中心に検討して、前回のシンポジウムで発表した³⁾。その後まだ日も浅く、新たに投与を開始した症例もそれほど多くはないので、今回はまず一般的な SH-582 の効果について簡単にふれ、つぎに現在までかなりの長期にわたって継続投与を続けている 1 症例の経過を述べて、私どもの責を果たしたいと思う。

SH-582 の一般的な投与効果

現在まで私たちが SH-582 の投与をおこなった症例は、Table 1 に示す 10 例である。これらの中には前回に発表した症例も含まれている。症例 1~7 は、す

で前立腺摘出術を施行したが、老齢のためまたは stage が早いと手術の適応とならない症例 8~10 に対しては、現在まで継続して SH-582 の投与をおこなっている。

これら 10 例における一般的な投与効果をまとめると、Table 2 のごとくとなる。すなわち自覚症状については大部分の症例において改善が認められ、ことに排尿が容易になったと喜ぶ患者が多かった。触診所見上前立腺がやや軟化または縮小したと思われた症例が 4 例あったが、超音波断層法による前立腺計測によると、まったく縮小が認められなかったことは、前回報告したとおりである。尿道膀胱造影像における 1 例の改善は、前立腺部尿道の辺縁不整が軽くなったものである。残尿量は半数において改善され、この点はかな

Table 1. Cases treated with SH-582.

Case	Age	Chief complaint	Palpation	Residual urine	Stage
1. M. H.	72	Dysuria	Hen egg-size	25	II
2. F. S.	72	Retention	Over hen egg-size	80	II
3. M. A.	65	Dysuria	Hen egg-size	0	I
4. S. S.	52	Pollakisuria	Over walnut-size	10	I
5. T. K.	64	Dysuria	Over hen egg-size	Retention	II
6. A. S.	65	"	Hen egg-size	"	II
7. B. S.	64	"	Apple-size	730	II
8. S. K.	79	Pollakisuria	Hen egg-size	100	II
9. S. I.	75	"	"	20	I
10. H. S.	81	"	"	35	II

Table 2. Results after treatment with SH-582.

	Improved	Unchanged	Aggravated
Symptoms	9	1	0
Palpation	4	6	0
Urethrovesicography	1	8	1
Residual urine	5	5	0

り明らかな投与効果といってよいように思う。ことにつぎに述べる症例8においては、著明な改善をみた。

長期投与症例の経過

症例8は79歳で、1年来の頻尿、ことに夜間頻尿を主訴として来院した。残尿感・排尿時痛・血尿等はみられなかったという。性病罹患は否定しており、既往歴・家族歴には特記すべきことはなかった。

皮膚はやや乾燥しており、腹部は平坦軟、右腎下極を触知した。陰茎は正常であったが、両側睪丸は萎縮しており、左副睪丸に硬い結節を触れた。前立腺は鶏卵大、弾性硬で、前立腺溝不明瞭であり、右葉は非対称的に腫張し、表面凹凸不平であった。

尿所見はほぼ正常であったが、残尿 100 cc をみた。静脈性腎盂造影には異常像なく、尿道膀胱造影では、前立腺部尿道における鞘状拡張と膿瘍形成とが認められた (Fig. 1)。血清酸フォスファターゼ 0.68 BLU、尿素窒素 15.6 mg/dl で、前立腺生検所見では炎症を伴った腺腫様肥大とのことであった。以上の検査結果より、第Ⅱ期前立腺肥大症兼前立腺炎との診断が下された。

老齢のため薬物療法を施行することとし、SH-582を投与することになった。そこでまず、PPI 走査による超音波断層法で得られた前立腺水平面断層像より、前立腺部の大きさが計測された。方法の詳細については前回に述べたので省略する。その結果肛門より 4.5

cm の深さでは 4.2×2.3 cm (横径×前後径、以下同じ)、深さ 7.0 cm では 4.3×2.4 cm、深さ 7.5 cm では 4.4×2.5 cm で、前立腺内部に膿瘍壁と思われる不規則なエコー像がみられた (Table 3, Fig. 2)。

SH-582 は 100 mg ずつ週2回、筋肉内注射によって投与した。2ヵ月後総計約 2 g 投与した頃より、頻尿が減少し、排尿が楽になったとのことであったが、この時点では 240 cc の残尿を認め、超音波断層法による大きさ計測でもまったく変化がなかった。この頃第1回の SH-582 シンポジウムが開かれ、1回 100mg の投与では少なすぎるとの意見があったので、以後1回の投与量を 200 mg に増やした。

投与開始後4ヵ月で、残尿は 30 cc 前後に減少し、頻尿も非常に軽快した。投与開始後1ヵ月経過したとき、3度目の超音波断層法による大きさ計測を施行した。投与量は合計約 10 g に達した。触診所見では前立腺は縮小したように思われたが、計測結果は最初の数値とほとんど異ならず、6ヵ月間の投与でも前立腺の縮小効果は認められなかった。以上の経過を通じ、みべき副作用はまったくなかった。

なお今回から、Bスコープ走査による前立腺の矢状面断層像も得ることができるようになったので、それを供覧する (Fig. 3)。Bスコープ走査とは、振動子は回転させず、超音波ビームは一方向に向けて発射したまま振動子をビームと直角の方向に移動させ、ビームの方向と振動子の移動の方向とでなす平面の超音

Table 3. Effects of SH-582 treatment in Case 8. Administration dose: 200 mg twice per week.

	Before	2 months after	6 months after
Symptoms	Pollakisuria	Improved	Improved
Residual urine	100 cc	240 cc	30~50 cc
Urethrovesicography	Hypertrophic pattern with abscess	Unchanged	Unchanged
Prostatic size	4.5 cm from anus	4.2×2.3 cm	4.1×2.3 cm
	7.0 cm //	4.3×2.4 cm	4.4×2.5 cm
	7.5 cm //	4.4×2.5 cm	4.6×2.7 cm

波断層像を描く走査方法である。私たちは経直腸の走査において、探触子の外筒は直腸内に固定したままで、振動子を装着した内筒だけを探触子の長軸方向に引抜くことによりこれを達成した。この方法によれば前立腺の任意の角度の“たて割り”断層像が得られる。Fig. 3 には矢状面(0°)と、これより左右10°ずらした面の断層像を示した。尿道膀胱造影(Fig. 1)にみられた膿瘍壁と思われるエコー像が、右10°の面に認められる。

このようにBスコープ走査を従来のPPI走査と組合せて用いると、対象をより立体的に把握することができる。さらに大きさ計測の上では、PPI走査で得られる前立腺の横径と前後径に加えて、Bスコープ走査により前立腺の上下径、すなわち高さをも知ることができるようになった。

さて、この症例は現在なおSH-582を投与しており、ほかにも数例の患者に対し、超音波検査を施行しながら長期投与を続けているので、それらのうちで今後も前立腺の縮小が起こったならば、ただちに報告する

予定である。ただし現在までのところでは、SH-582の効果に関して前回のシンポジウムで述べた下記の結論を、ここで再び挙げざるを得ない。

- 1) 自覚症状の改善には明らかに有効である。
- 2) かなりの症例に残尿量の減少が認められた。
- 3) 超音波断層法による前立腺の大きさ計測において、6カ月以内の投与では前立腺の縮小は認められなかった。

ご指導、ご校閲いただいた矢野仙太郎教授に深謝する。本論文は1970年7月11日東京でおこなわれた第2回SH-582シンポジウムにおいて発表した。

文 献

- 1) 渡辺 決・ほか：日泌尿会誌，59：273，1968。
- 2) Watanabe, H., et al.: Invest. Urol., 8: No. 5, 1971, 掲載予定。
- 3) 渡辺 決・ほか：泌尿紀要，16：438，1970。
- 4) 渡辺 決・ほか：日本超音波医学会第18回研究発表会講演論文集，P.37，1970。

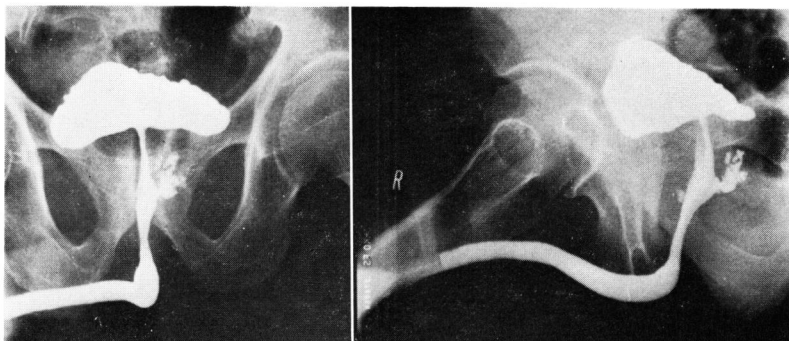


Fig. 1. 症例8の尿道膀胱造影。前立腺部尿道における鞘状拡張と膿瘍形成。

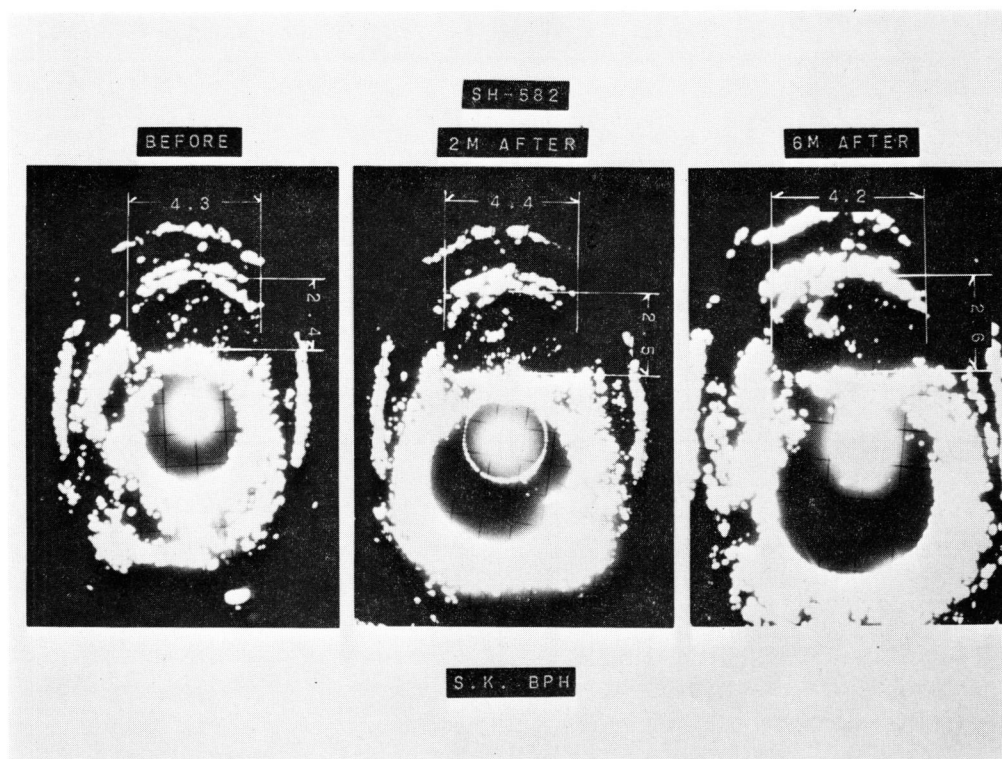


Fig. 2. 症例8における SH-582 投与前, 投与後2ヵ月, 6ヵ月の前立腺水平面超音波断層像. 肛門より7cm. 数字は前立腺部横径および前後径.

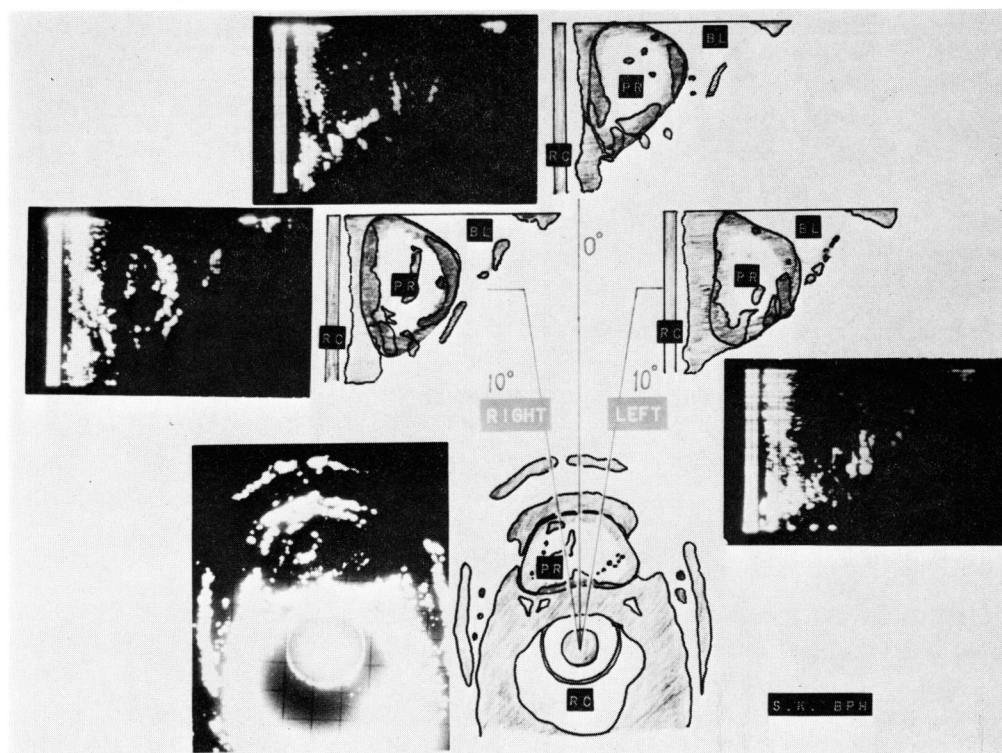


Fig. 3. 症例8における種々な前立腺部超音波断層像. 下: 水平面 (PPI 走査). 上: 矢状面 (Bスコープ走査). 右および左: 矢状面より左右10°ずつずらした面におけるBスコープ走査.